

第7回 災害復旧技術講習会(2025.06.18)

近年、全国各地において激甚な自然災害が頻発しており、被災市町村における災害復旧事業については、災害査定などの普段体験しない迅速な対応と膨大な実務が求められています。

こうした状況の中、当協会では、平成29年九州北部豪雨災害により被災した福岡県の朝倉市や東峰村に対して、災害復旧技術専門家と連携を取りながら、災害復旧の支援活動を行ってきました。

これらを踏まえ、九州内における市町村職員や災害復旧事業に携わる技術者の方々を対象に、災害対応能力の向上に資することを目的として、会場とオンラインの併用で講習会を開催しています。今回は、会場49名、Web263名と多くの方々に受講していただき、盛況のうちに終了しました。参加者の皆さんのアンケート結果からも、有益な講習会となりました。



災害復旧技術専門家
後藤 信孝 氏



国土交通省
水管理・国土保全局
一戸 佳充 氏



国土交通省
九州地方整備局
松木 厚廣 氏



国土交通省
九州地方整備局
酒匂 俊輔 氏



(一社)九州地域づくり協会
久留 省二



講習会の様子

カリキュラム

①「災害復旧事業制度について」②「近年を中心とした改正点について」

災害復旧技術専門家 後藤 信孝 氏

③「災害復旧事業の留意点について」

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課 災害査定官 一戸 佳充 氏

④「TEC-FORCEの活動について」

国土交通省 九州地方整備局 災害対策マネジメント室 室長 松木 厚廣 氏

⑤「DXで災害対応の未来を切り拓く」

国土交通省 九州地方整備局 企画部 インフラDX推進室 建設専門官 酒匂 俊輔 氏

⑥「被災市町村への支援事例について」

(一社)九州地域づくり協会 技術部 部長 久留 省二

参加者の皆さんのアンケート

- ・ 災害査定の仕組みを理解することができた
- ・ 最新の事例を多く交えた講習会だった
- ・ DXを積極的に活用して、安全に迅速に効率化することの重要性を再認識した
- ・ 実務に直結する内容が多く大変参考になった
- ・ 様々な立場から、現場のリアルな声や課題を直接聞くことができ、制度や施策の背景にある意図や、運用上の工夫をより深く理解することができた
- ・ 災害手帳のみでは分からないことを、丁寧に具体的に説明していただいたことで、思い込みや新たな視点に気付いた
- ・ 継続して受講することが大切だと感じた